

主编 汤重南

日俄战争史料

13

綫装書局

主编 汤重南

(第十三册)

日俄战争史料

线装书局

第十三册

第九卷 北京天津電報

早稻田大學

自明治三十七年二月至五月

.....

一

北京天津電報

第九卷

早稻田大學

自明治三十七年二月至五月

北京天津電報

自明治三十七年
二月至五月

日露戰役史料

第九卷

早稻田大學

明治三十七年二月分

北京天津電報集

二月一日 北京度

我國の戦間準備は暗々裏に其歩を進め開平炭
坑の塊炭及び粘炭併せて二萬噸の買入契約既
に旅順口の海軍所用商人クラークソン商會と
の間で締結され現に明日より其積出を秦皇島
に初むる若し南支同炭坑炭三萬噸の買入契
約目下進行中にして多分三四日以内にその積
出を見るに至るべし南支又その外にも北支
の二商店野藏の日本炭二萬噸もクラークソ
ン商會より買入相談中なり

曠日彌久は露國を利し我邦に取ては不利を
なりとの聲當地に於けり米美人中に喧し

天津度

袁世凱氏は練兵大臣に任を辭したる旨願ひ出
でたり頑固派の妨害あり其改革意の如くなる
おしと以てなり

北京度

日米兩公使より頼りに滿洲開放を迫りつゝ

るに領事駐劄と同時に税関設置其他諸般準備
の必要あり清國政府は是等の準備に就ては奉
天將軍増祺に訓諭せる所あり準備の整頓を待
つて開放を宣布せしむべきなり今此の情況
にては實際是等の準備着手に困難の事情ある
ことは兩國政府にありし諒とせる所あり條
約の明文に依り表面上其開放をば迫りつゝあ
るもの、日露問題蒸着後なりといは開放の事實
を見ること能はざるべしと云ふ

二月二日 北京 友

袁世凱氏。練兵大臣職に就くに許可を得て度親
王と共に奮勵練兵の事に當りべしとて上訴出
でたり

二月三日 北平電

別便廻難者（哈爾濱の日本人總代）の直談：
ハルバ毅固ハ哈爾濱に築設せし執通係獲の房
めと稱して新ニ四門の大砲と同市の入口に掘
けりたり又浦漢斯港の背面防禦工事既に完
成し居り哈爾濱に於ける毛皮類と薪炭類と
ハ甚多量需品として俄國産鹿の貢上りハ代

價は未嘗有の暴騰なり

鉄道技師として使用せし居たり、波蘭土人は
いつた小の突然解雇せしむる其後任を命ぜられ
たるは世にせし工（未詳）なり

馬賊の横行は近來一層の活動を加へ、白晝露人
の商店に闖入して數十台の車輛に貨物を満載
し行くものあり、甚くは教門の野砲を引き來
して不意に露國の兵營を襲撃し、軍需品及び武
器等を掠奪し去るものあり、此に對する露人の
處分法緩慢なり

十萬兩の紙幣を廢止し得る大の原料紙は廢造
器械と共に一組四千張にして市場到る所を販賣

さん長しき吾國の之を禁止せざるのみならず
廢紙幣の流行ハ國威を揚ぐ一助なりと却つ
て之が利用の方法を講じつゝあるもの、如く
吉林にて製造せる銀貨の一元が四十銭の安直
に下落せしと處に留紙幣として盛んに之を買収し
本國に輸送し居り云々

右商賈より当地へ避難し來る居留民衆代の
直話に同地は目下千餘人の同胞あり時局の
切迫に伴ひ何れも大不安の念を懷き居り先
程談市警察署長に向つて萬一の際我等の生命
に危害なき様保護を與へらるべきや否やと訊

せしに諫署長は奉天迄護送せしとみしに
甚だ暖昧なる挨拶ありしに居留民一同到底
居留の保護に依頼し難きを悟りて内地を引揚
げしもの多く其他ハ五十兩宛の醵金を爲して
天幕食品等の準備を整へ萬一之際ハ通を内
蒙古に取りて山海関若しくは張家口方面に避
難せし事ハ決定し居り又齊々哈爾濱に三万
海拉爾に二百名の同胞あり如何ニ危難を避
け得べきや疑同なり

天津者

楊逸公使、天津は津鎮鉄道北部に、美國にて未
だ工事：着手せむるに、周りと楊逸：譲ら
む、運動の爲なり

義和と出度し、七十九名、夜圍諒兵は馬玉昆
の兵に北京の北部より、朝陽義和の方面に出で
たり、この説あるより、復察の爲め北行せしむ
るに未だ錦州：入るに至らむ

二月四日 (天津員)

夜兵八十餘名：入り、花倉を占領し、駐屯し居る